

## 博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

<b>機 関 名</b>	東京大学	<b>整理番号</b>	C02
<b>プログラム名称</b>	ライフサイエンスを先導するリーダー養成プログラム		
<b>プログラム責任者</b>	宮園 浩平	<b>プログラムコーディネーター</b>	岩坪 威

### 博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

#### [総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

#### [コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、医・工・薬・理という幅広い分野からの学生と教員、そして産・官・学・医療機関の第一線で活躍する講師陣の参加の下に、分野横断的・統合的な視野と知識を獲得できる講義・演習が実施された。また、学生に1名ずつ異分野の教員を副指導教員として配置するとともに、学位審査を各専攻での専門性の高い厳しい審査に加えて、副指導教員とそれ以外の2名の審査委員による審査を行うなど、学位の質を保証する体制が構築された。さらに、海外短期留学・短期研修、学生が主体的に企画・運営する全体会議・コロキウムの英語での実施など、グローバルな教育・研究環境が整備され、本プログラムの掲げた目標が達成されたと評価できる。強いて言えば、社会人及び留学生の本プログラムへの参加者数が目標を下回った点は多様性の観点から改善が望まれる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、本プログラム学生の大多数がプログラムによって俯瞰力や独創力等の汎用力の向上を実感しており、また、海外の研究者、本プログラム修了者、他のリーディングプログラム学生等との多様な人的ネットワークの構築にも成功していると感じているなど、概ね評価できる。当初、本プログラム学生の大部分がアカデミア志向であったが、現在では海外でアルツハイマー病診断薬の開発を目指して起業した学生など、産業界をはじめアカデミア以外へ進出した修了者も多く出ており、各界のリーダーとなりうる状況が生まれている。また、メーリングリストの活用やアンケート調査、ニューズレターの配布等を通じて修了者の社会での活躍状況を長期的に把握するシステムが構築されている点も評価できる。

事業の定着・発展については、学長のリーダーシップの下に「東京大学ビジョン2020」の理念に基づき、平成29年度に東京大学として2つの「国際卓越大学院（ライフサイエンス卓越大学院（仮称）及び生体医工学卓越大学院（仮称）」が創設され、本プログラムがこれらの大学院へ移行されることが決定している。その中で、本プログラム学生のコース修了までの経済的支援を保証するとの総長宣言が出されている点は評価できる。今後とも本プログラムの精神と実践の継続・発展を強く要望する。